



助成金を知ろう！



とき：平成 26 年 5 月 13 日(火)15:00～17:00

講師：山室秀俊さん

(長野市市民公益活動センター センター長)

前半戦は山室さんの講義。今回、初めて山室さんを講師に迎えての勉強会でした。その軽妙な語り口とわかりやすいお話、みなさん引き込まれていました。お話をかいつまんで・・・

そもそも助成金とは？

ボランティアグループや NPO が使える多様な財源の中から、助成金にはどんな性質があるのかわかりますか。活動をしていくには多様な財源を上手に使う必要があるが、自主財源がないのに助成金を申請するのはやめた方が良い。



そして、助成金にはそれぞれの「思い」があって、助成金を出す人たちは団体を助けてくれるのではなく、その活動の先にいる人たち(ものごと)を見ています。この人たちはお金を返してくれと言わない代わりにみなさんの活動で社会にしっかりと還元してほしいと望んでいるのです。「良い活動であれば、助成金をもらえる」「採択されれば、自由に使える」は誤解、そして、助成金の効果がしっかりと見えるものでないとだめ。



申請するときには？

まずは、どうして助成金が必要なのか、助成金で何をしたいかから始まってその先の展開もしっかり考えたうえで申請することが大前提。助成金はそのきっかけ。そして、その助成金の要件やねらいはしっかり確認。実際の審査では、審査員は過去は見ていない。たいてい、その後を見ています。成果を見ています。そして、自分たちの成長、元気につながる要素を忘れないように。楽しさが半減してしまうのではもったいない。

申請書の書き方のポイント

まず、ストーリーを考えること。地域や社会の問題、あるべき姿、目指す方向、理想の状況、1と2のギャップを埋めるために、どんな解決策を実行しますか？
そして、この先が大切。解決策を実行することで、社会や地域はどう変化するかこのストーリーを仲間と一緒に考えよう。「共感」なくして採択されない！

もっともっとたくさんお話してもらいましたが、それは参加した人だけのヒミツです。

勉強会後半はながのボランティア・市民活動支援ネットワーク会長の込山哲也さんの司会で、講師の山室さんも一緒に情報交換会となりました。

まずは、込山さんから支援ネットのささえあい応援金についての説明をしていただきました。これまで多くの団体が、ささえあい応援金をきっかけに情報市場（毎月第三水曜日開催、誰でも参加できる情報交換の場）を足掛かりに成長してきた様子を話してもらいました。



プレゼンの予行演習を兼ねて、自己紹介。制限時間内に、どう自分のこと、団体の活動のことなどまとめるか、とても大切なことです。互いの活動を知り、この場にも出会いがありました。子育て支援の団体の方と、読み聞かせのグループの方、その後も関係は続いています。動けば変わる、そんな瞬間に立ち会いました。

参加者からは、山室さんや込山さんにたくさん質問も出ました。そして、最後に込山さんから「いろんな人と話すことがまず大事。自分のまわりで支持者を集めてください。いろんな発想が集まると思います」とのアドバイスがありました。

参加者は納得した様子で、笑顔で解散となりました。



講師二人から・・・。
みなさんのご応募
おまちしています！

